

活動計画書 / 活動実施計画書

団体名：鶴舞・千種エリアマネジメント協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-2,C-1,E-2,F-3,G-1

2 活動地域の特性、現況、課題

鶴舞・千種エリアは、商業・教育・福祉施設を中心とした多数の事業者が位置し、居住に適した地域である。名古屋都心部から近く、小学校や大学、大規模な集合住宅、高齢者施設などがあるため、若者から子育て世代、単身者、高齢者まで多世代が住んでいる。これまでの協議会活動や地域活動への参加を通して、同世代間の交流はあるものの、多世代をつなぐコミュニティが希薄な現状を実感している。安心・安全で災害につよく、魅力的な活動が生まれるまちを目指すにあたり、世代を超えた地域住民相互に顔の見える関係の構築は重要である。千石学区連絡協議会（以下：学区）や消防団などの地域組織の高齢化や人員不足が加速する現状も踏まえ、世代を超えた交流が活発になる基盤づくりが必要であると考えられる。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

我々は昨年、地域で長年続いてきた夏祭りを学区と共催し、約3,000人の地域住民が来場した。協議会では、水鉄砲づくりや縁日、ビール・ジュース販売、うちわラリーなどをおこない、多世代が楽しめる賑わいの場を学区とともに作り上げた。また、学区が主催する「ふれあい祭り」に参加し、多世代の地域住民と対話しながら、地域の魅力MAPを作成した。上記の地域組織と連携したイベントでは、地域まちづくりのPR助成を活用し、うちわラリーや地域の魅力MAPに合わせて、協議会のまちづくり活動の周知をおこなった。以上のように、我々はこれまで実践的な活動を通して、地域の課題把握とまちづくり活動の周知に努めてきた。

4 助成を受けようとする活動の目的

今年度は、昨年度作成したビジョンを実験し、更新するために社会実験をおこなう。昨年度、学区の会長を交えた複数回のWSをおこない「鶴舞・千種エリアマネジメントビジョン ver.1」を作成した。ビジョンでは、CAN PLAY TSURUMAI・CHIKUSAのコンセプトを掲げ、街中でスポーツしたり、トライしたり、乾杯したりできるまちを構想している。このビジョンの実現により、街中が出会いの場となり、世代を超えた地域住民相互に顔の見える関係の構築を目指す。多世代に顧客を持つ我々だからこそ、多世代交流の媒介となり、世代を超えたコミュニティを構築できる可能性がある。また、世代を超えた繋がりにより、若い世代をこれからのまちづくりの主体として巻き込んでいくことができると考えられる。

今年度の社会実験として行う夏祭りは、既存の地域活動や街の歴史をもとに企画し、オープンスペースや歩道空間を活用し、多世代の交流を生み出す。夏祭りは多くの地域住民が参加するイベントであるため、ビジョンの実験の場として有効であると考えられる。ま

た、社会実験の準備を通して、地域住民との関係性を構築する。社会実験を実施し、地域の課題や魅力を深掘りし、ビジョンに反映することが助成を受ける目的である。

5 活動による今年度の成果目標

昨年に引き続き、学区と連携し社会実験として夏祭りをおこなう。昨年度の夏祭りにおいて、名工大伊藤孝紀研究室主体で千種アーススクエア周辺に関するアンケート調査を行った。来街者について、平常時は多世代がほぼ同じ割合で来街しているが、イベント時は、30,40代が7割を占めた。子育て世代が多く参加している一方で、若者や高齢者が少ない傾向があった。今年度は、企画内容や周知方法を工夫することで、子育て世代をメインターゲットとしながら、他の世代の来場をさらに増加させ、多世代の交流を誘発したい。また、イベント時の来街者の居住地域は、鶴舞・千種エリア内が8割を占めていた。今年度もこの数値を継続し、地域に根付いたイベントとしたい。今年度もアンケート調査をおこない、多世代の視点からまちに対する意見を把握することで、ビジョンを更新し、来年度以降の活動の指針とする。

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

夏祭りと連携した社会実験

学区で恒例の盆踊りと連携した夏祭りにおいて社会実験を実施する。千種アーススクエア周辺のオープンスペースにおいて、スポーツ・トライ・乾杯できる企画や、歩道空間・民地・公地に什器を設置し、多世代が憩える居場所をつくる。事業者の特徴を反映した企画により、各々の顧客を巻き込み多世代交流を図る。

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

① 周辺事業者

各事業者で連携し、企業市民として地域活動に貢献することで、持続可能な活動の基盤を構築するため。昨年度から、新たに千種アーススクエア内の高齢者施設やインキュベーション施設を中心にヒアリングをおこない、連携拡大をおこなっている。

② 地域組織(学区連絡協議会、消防団など)

地域の現状や意見をリアルタイムで把握し、まちづくり活動に反映させるため。2024年度からは、学区が協議会の幹事メンバーとなり活動をおこなう。さらに、消防団など学区以外の地域組織との連携も強化していきたい。

③ 千種区役所、千種土木事務所、千種警察署、その他関係行政機関

高架下や歩道空間など、賑わいの場としてオープンスペースを使った社会実験をおこなうため。昨年度から、公地利用に関する協議をおこない、協力のもと社会実験を実施している。

8 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
令和 6 年 4 月～5 月	夏祭り内容検討
6 月	第一回勉強会 夏祭り装飾ワークショップ 什器製作 ホップを植える会
6 月～7 月	まちの魅力 MAP アウトプット
7 月	RUN FOR HOP
6 月～8 月	夏祭り・社会実験準備
8 月	夏祭り・社会実験（助成対象活動）実施
9 月	秋社会実験内容検討 第二回勉強会
10 月～11 月	ふれあい祭り準備
11 月	ふれあい祭り
2025 年 2 月	第三回勉強会

9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと今後の展望

5 に示した通り、昨年度に引き続き社会実験として夏祭りの規模を拡大しておこなう。今年度は地域の子どもたちと夏祭りの装飾制作ワークショップを行い、社会実験の準備過程から地域住民が参加し、交流する場を設け、地域の現状把握につなげる。社会実験とその準備を通して協議会の活動に対する地域住民の認知を広げ、周辺事業者と地域住民の密接な関係の構築を目指す。

活動の目的を達成するには、社会実験だけでなく、町内会の運営や地域の清掃活動など、協議会としての日常的な地域活動への参加が必要であると考えられる。周辺事業者がそれぞれ企業市民としてまちづくりの主体となり、日頃から地域住民との積極的な関わりを持つことで、リアルタイムで地域の現状を把握することが可能になると考えられる。

社会実験や日常的な活動を1年間行い、年度末に地域課題の気づきやビジョンの評価を議論することで、より地域の声を反映した「鶴舞・千種エリアマネジメントビジョン ver.2」へと更新し、来年度の活動の指針とする。

周辺事業者が地域住民と連携し、企業市民として地域活動のプレイヤーとなることで、多世代交流を生み、これからのまちづくりを担う主体として若い世代を巻き込むことができると考えられる。そして、この活動で生まれた交流や賑わいが一過性のものとならず、持続可能なまちづくりの基盤を構築することが可能になると考えられる。

この活動を通し、毎年ビジョンの更新をおこなうことで、地域の声を反映したより具体的なビジョンを作成する。将来的には都市再生推進法人への認定を目指し、具体的なソフト・ハードの整備に繋げることで、この地域で働く事業者にとっても、地域住民にとっても、働いていて良かった、住んでいて良かったと思えるまちにしていきたい。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、3ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。